

グループ 2 の検討の進捗について

グループ 2 は、とても範囲が広く、出発点が異なるため改めて課題抽出を行っていることを 9/25 の前回 WG 会合で説明し、他グループや他分野とのインターフェイスを意識しながら検討することとしている。

前回 WG 会合以降、グループ 2 としての会合は開催していないが、9/25 に説明した課題について、検討フローへの割り当てによる整理を開始したところ。今後、他グループの状況を踏まえつつ、整理を継続していく予定。

他グループとのインターフェイスに関しては、個別課題の分析作業の段階において、以下を確認している。

- ・Gr1: 燃料棒過渡応答解析コードの高度化
- ・Gr3: 炉内熱流動解析コードの高度化

また、他分野とのインターフェイスに関して、次のような状況を確認している。

(1) 2016 春の年会 5 部会合同企画セッションについて

2016 春の年会において、核燃料部会、熱流動部会、計算科学技術部会、保健物理・環境科学部会、水化学部会が合同で企画セッションを開催し、「福島第一原子力発電所事故時の核分裂生成物挙動 事故時の FP 挙動の概要と今後の総合的ソースターム解析への道」を発表の予定。ソースターム解析は、核燃料分野と他分野との代表的なインターフェイスの一つであり、結果のロードマップへの反映について検討予定。

(2) 使用済燃料貯蔵能力の拡大について

本年 5 月 22 日に閣議決定された『特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針』の中で「使用済燃料の貯蔵能力の拡大を進める」とされ、10 月 6 日の最終処分関係閣僚会議において、『使用済燃料対策に関するアクションプラン』が了承され、事業者に対して『使用済燃料対策推進計画』の策定・公表が要請された。

その要請に基づき、事業者として同計画を取りまとめ公表し、その計画内の「3. 事業者全体の取り組み」「(2) 実施項目」に、共同での研究開発の記載がなされている。

こちらは現在取りまとめ中の事業者の研究計画に基づいたものであり、取りまとめが確定次第、ロードマップへの反映を議論したい。

よって、現時点でロードマップに反映すべき新たな事項などは確認されていない。

以上